

宮城県 亶理町での会議

2012年10月11日に宮城県亶理町にて「鳥の海再生プロジェクト」に係わる会議の様子を河北新報社に取材いただきました。

(河北新報社 2012年10月12日 朝刊)

バイオマス発電活用を

亶理・わたり温泉鳥の海再生

東京の若手経営者ら提案

東日本大震災の津波で被災し、休業中の亶理町荒浜の温泉施設「わたり温泉鳥の海」の再生策を考える検討会が11日、町役場で初めて開かれた。参加した東京の経済人グループからは、被災農地を活用したバイオマス発電を施設の運営に活用する案などが示された。

検討会には齋藤邦男町長ら町幹部や関係者のほか、首都圏の若手経営者でつくるNPO法人「元気を日本をつくる会」（略称・元気会）の中野晴啓理事（セゾン投信社長）ら3人も参加。町が施設の現況を説明し、2014年春を見込む再開

後の活用策を討議した。中野理事らは、被災した沿岸部の農地で育てた牧草を発酵させ、発生したメタンガスで発電を行うプランを提示。売電で



わたり温泉鳥の海の再生策を話し合う検討会でありさつする齋藤町長

得た収益を温泉施設の債務約11億円の償還に充てるほか、発電で生じた熱を活用する企業の誘致を図るとした。

元気会は震災前から町の復興を支援してきた。中野理事は「亶理を光り輝く姿に戻すため、民間がどうサポートできるか考えたい」と語った。

検討会は来年3月までに3回程度の会合を持ち、具体的な再生策を話し合う。元気会の須田憲和本部長は「施設単体でなく、地域全体を含めたプランを考えたい」と強調。齋藤町長は「施設の再生なくして、荒浜の観光は前に進まない」と期待を寄せた。

水産加工集積
「まずは数割」

気仙沼市長答弁

気仙沼市議会の震災調査特別委員会が11日あ